



知ってほしいDVのこと

初めまして。私たちAsians Against Domestic Abuse(通称AADA)はドメスティックバイオレンス(以下DV)被害者を支援することを目的とし

て、2001年に設立された非営利団体です。運営はボランティア、寄付、助成により成り立っています。米国内国歳入庁(IRS)からは、公益法人として、501(c)3の承認を得ています。2021年より、在ヒューストン日本国総領事館と提携し、テキサス州及びオクラホマ州に在住の邦人DV被害者の支援を行っております。



AADAチームメンバー
(2024年2月のGALAにて)

DVという言葉自体を聞いたことがある方は増えてきていると思いますが、DVをどのくらい理解しているか、と問われた時に答えられる方はどれくらいいらっしゃるでしょうか。DVとは配偶者や恋人などの親密な関係にある、または過去にそういった関係にあった者から、繰り返し振られる、身体的に限らない暴力的な行為のことを指します。女性が被害者になるケースが圧倒的に多いのは事実ですが、男性が被害者になっている場合もあります。実際に助けを求める方は氷山の一角で、約70%は相談すらされていないと推定されています。

DVを理解するために、まずは知ることがとても重要だと感じています。多くの日本人の方が勘違いしていること。それはDV= ボコボコに殴ったり蹴られる「身体的暴力」、と知っているということです。そのせいか、多くの人にとってはDVは他人事だと思っている方がたくさんいらっしゃいます。DVは他にも様々な種類があり、下記にあげる種類のDVを複数同時に受けていることがほとんどのケースです。

- 1)身体的DV→殴る、蹴る、物を投げつけるなど、2)精神的DV→バカにする、怒鳴る、無視するなど、3)経済的DV→生活費を渡さない、外で働くことを禁じるなど、4)性的DV→性行為の強要、避妊に協力しないなど、5)社会的DV→交友関係の制限、携帯電話の監視、自由に外出させないなど、6)デートDV→恋人間に起こる1~5全てのこと

National Domestic Violence Hotline(2022)の報告によると、上記DVの種類で圧倒的に報告が多いのが2)の精神的暴力です。皆さんが最近よく聞かれる「モラハラ」はここに該当します。この数字は日本もアメリカも変わりません。またDVを自覚してから実際に逃げ出すまで、平均で7回かかるとも言われています。なぜか、DV加害者はあらゆる手段を用いて相手の自尊心を少しずつ奪い、支配していきます。最初は被害者も言い返したり、「私が我慢すれば」「私をもっと頑張れば」状況がよくなると信じ奮闘しますが、どれだけ耐えても、どれだけ頑張っても、状況は変わりません。何をしても否定され、何をしなくても責められる。それが毎日続くんです。「私はダメな人間だから、この人がいないと生きていけない」と思うほどに追い詰めます。こういう精神状態に陥った方が、その環境から抜け出すことの難しさが少しは想像できるのではないのでしょうか。また被害者になる方は経済的に自立していない方がほとんどです。経済的DVにより自立を阻まれてきた方もとても多いです。更にお子さんがいると、離れた方がいいと頭では分かっているけど、その後のことを考えると躊躇してしまう、という思いに共感できる方は多いと思います。見落とされがちな点として、お子さんへのDVの心理的影響があります。直接的な暴力を受けていなかったとしても、目の前で目撃することを面前DVと言い、心理的虐待になります(内閣府男女共同参画局)。例え経済的に不自由なく暮らせていたとしても、DVが常態化している環境で育つことの長期的影響は計り知れ

ません。本来、家庭とは安心安全の場所であり、外でどんなことがあってもここに帰ってくれば大丈夫、という心の安全基地です。大人を頼らないと生きていけない子供たちにとって、その安心安全を感じられる場所がないということを想像してみてくださいと思います。

私たちの団体には、日々、様々な事情を抱えた方が来られます。国際結婚の方もいれば駐在の方もいらっしゃいます。お子さんがいらっしゃる方もいれば、お付き合いをされている段階の方もいます。DVを受けて日が浅い方もいれば、何十年も耐えてきてやっと助けを求めてくる方もいます。明確に離婚をしたいと決めている方もいれば、どうしていいのかわからないと途方にくれている方もいます。DVかどうか分からないけれど...と確信が持てずに来られる方も一定数いらっしゃいます。一度相談を受けた後音沙汰がなくなり、しばらく時間が経って更に状況が悪化して戻ってこられる方もいます。それぞれの方の状況の深刻度に限らず、「これまで誰にも相談できなかった」と仰る方がほとんどです。

日本の文化、社会において、家庭のことを第三者に話すことは恥であるという考え方、代々家庭内の女性に暗黙の了解で求められてきた自己犠牲の精神などが障壁となり、相談することすら非常に難しい現実があります。また、意を決して誰かを頼った時に「なんで逃げないの?」「この家でもそれくらい当たり前でしょ」とかえって傷を深めることを言われることも残念ながら多々あります。特に配偶者を頼って帯同してアメリカに来た方にとって、日本と同じように情報を探し適切な支援を受けることは、困難を極めます。



昨年のThanksgivingに行ったイベント
(クライアントを招待)



もしこれを読んでくださっている方が、または身近な方が、日々パートナーからDVを受けていたり関係性で悩んでいるのであれば、どうか一人で抱えず、私たちのような専門団体を頼って頂く勇気を持って頂きたいと強く思います。DVの問題は非常に根深いです。相手と物理的に離れれば、離婚すれば解決というものではなく、長らく受けた心の傷をゆっくり焦らず癒していく作業も非常に重要です。そういったことを含め私たち支援者は、可能な限りの情報をお渡しし、それぞれの選択肢を説明し、相談者さん自身の最善をそこから選び決めてもらうのをサポートする立場です。支援者が思う考えや支援を押し付けることはありません。私たちの願いは、今DVで悩み苦しむ方々が、1日でも早くその環境から抜け出し、1秒でも多く笑える未来を生きてもらうことです。

<タランゴ瑠子> Women's Wellness Program Coordinator
クライアントの精神的支援、DVに関する研修、教育、及び団体の周知活動、他団体との連携に力を入れている。



Asian Against Domestic Abuse
Helpline 713-339-8300 (日本語可)
Office 713-974-3743 (日本語可)
aadainc.org | [facebook](https://www.facebook.com/aadainc) | [instagram](https://www.instagram.com/aadainc)